

庁議の概要

開催日：H19.4.3

項目

- 1 知事からのミッションについて【各部局】
- 2 人事異動の概要について【総務部】
- 3 震災時の配備基準及び動員体制について【危機管理部】

内容

- 1 知事からのミッションについて【各部局】

知事から連携官、部局長にミッションを渡したうえ、次のとおり知事より話があった後、連携官、部局長から今年度の抱負や取り組みの方針について説明を行った。

- ・（先ほど知事講話で話したことに尽きますが）ペーパーで全部局のミッションを配りましたので、各部局のミッションを実行していただくことは勿論なのですが、他部局も含めて、どういう形でミッションがいつているかということを知っておいていただきたいと思います。それから、本年度新しくできた職である部局連携官がおられます。部局連携官はスタッフを持っている訳ではありませんので、単なる調整機能だけになると権限のない本当の意味でのスタッフ機能になってしまいます。やはり、きちんと部局間の色々なテーマについて、どういうものをテーマにしてやっていくかというのは、少し話しをしながらやっていきますけれども、具体的に進めていくだけの権限を持っていただきながらやらなければならないということになりますので、副知事、私が一緒になって動いているという受け止めで、単なるスタッフのアドバイザーの意見ということではなくて、ラインとしての意見なり指示ということを受け止めながら、連携の仕事に関りのある部局は進めていっていただきたいということ付け加えて申し上げます。（知事）
- 2 人事異動の概要について【総務部】

総務部より、人事異動について概要説明があった後、意見交換を行った。

【説明概要】

（人事異動の概要）

- ・ 1・2 等級の昇任は昨年度より 12 名減少している。これは組織のスリム化によるものである。
- ・ 3 等級の昇任は 2 名で昨年度の 124 名から比べると著しく減少している。これはポストに就かないと 3 等級にはしないという方針によるものである。
- ・ ポスト数も昨年度より 46 減少している。これも組織のスリム化によるものである。
- ・ 職員数は昨年度より 136 名減少し 3,692 名となっている。平成で一番職員数が多かった平成 6 年度からでいうと 1,005 名減少している。

（人事異動に関連した留意事項）

- ・ 部局連携官を設置している。
- ・ 知事部局 73 名、教育委員会 3 名、計 76 名が技能職から行政職への転職をしている。今後、平成 20 年度から平成 22 年度まで 3 年間続くが、人数は若干減少する予定。

- ・ 1年目は枠外配置とし、2年目からは枠内の配置とする。最初の1年間は研修期間という位置付けで枠外配置としているので、各職場でジョブトレーニングをお願いしたい。各職場で研修推進員をおくこととしているので配慮をお願いしたい。
- ・ 知事部局年齢別職員数では、30歳以下の職員が極端に少ない状況となっている。今後、年間100名以上の職員を減少していくが、年齢構成の偏りを防ぐために採用は増やしていく予定である。
- ・ 職員数が減少していくので、アウトソーシングをより促進していただきたい。

(アウトソーシングの推進について)

- ・ アウトソーシングの数値目標はスリム化に重点を移して数値目標を見直している。
- ・ アウトソーシング業務数の推移では、進捗が悪くなっているので、上積みをお願いしたい。
- ・ 5月21日から6月4日には、知事・副知事と部局長がアウトソーシングのアクションプランについて協議をする場を設定している。

(企画課について)

- ・ 企画課の目的を果たすためには、各部局長の意識や使い方が大事である。
- ・ 新年度をスタートさせるに当たり、企画課に明確なミッションを与え、議会で質問があった場合でも自信をもって答えができるようにしていただきたい。

【主な意見】

- ・ アウトソーシング実施の判断基準と、その見直しということは今後でてくるのか？
でない。
- ・ 2月の企画建設委員会で予算要求書と平成19年度当初予算を比較して、アウトソーシングで予算要求されたものが査定されていることを指摘された。アウトソーシングの効果やスリム化の考え方について、総務部と各部局に意識のずれが生じているのではないか。
査定の内容については財政課から具体的な説明があったのではないか。
- ・ 単なる外部委託なのか、民間の力を生かしたアウトソーシングなのか、多少コストがかかってもこの業務は将来的に民間に任せたいというものについては査定でも考慮している。業務改革推進室と財政課との間で考え方の相違もあったため、調整をしてもらいたい。
- ・ いくつかの課から聞いてみると、アウトソーシングはできるけれども、予算的上限をはめられてアウトソーシングを止められたということがあつたのは事実みたいだ。今後、業務改革推進室でも対応を考えてもらつてもいい。(副知事)
- ・ アウトソーシングの目標である、スリム化、仕事の仕方を変える、県民との協働、雇用を創る、の4つの中で、スリム化以外の3つは具体的成果があがっていない。事業の掘り起こしを進めてアクションプランを作ってもらいたい。(副知事)
- ・ 知事のミッションの共通事項で「スリム化を含まない、実質的アウトソーシングの推進」という意味は何なのかを明らかにする必要がある。従来型で行うアウトソーシングはもうないのではないか。
- ・ 業務改革推進室では、アクションプランの作り方を作成している。本来の目的4つのうち、スリム化だけに注目し過ぎており、それ以外の目的の成果があがっていない、スリム化以外の部分を進めることが実質的アウトソーシングである。(副知事)